

Smile Woman!  
インタビュー⑤2この人の仕事のカタチ  
どこか置いてある「仕事」をしているあの人にズームアップ。

Masako Nakagawa

## いつも被写体と

## 全力で向き合う

「華がある」という言葉がぴったりの中川正子さん。被写体ではなくカメラマンとして、東京で数多くの写真撮影に携わってきた。その経歴は圧倒するものがあるが、彼女と話していると過去を振り返るのは無意味なことに気付いた。それは今の瞬間を生きているのが伝わってくるから。「仕事の内容や大きさによって優劣はつけない。いつも被写体と全力で向き合うだけです」。スタンスは一貫している。

## ◎震災で岡山へ引越す

昨年の東日本大震災をきっかけに家族で岡山市中区へ引越してきた。仕事の関係で、東京と岡山の往復生活であるが「岡山は住みやすいので、とても気に入っています」と話す。しかし、東京と岡山の生活リズムの違いに慣れるのに「カ月掛かたそうだ」「無いもの探しから、有るもの探しに気持ちが切り替わった瞬間、岡山が好きになりました」一心に響く一言だった。物事があるがままに受け入れる姿勢は、中川さんの作品にも写し出されている。

## ◎留学を機にカメラの道を選ぶ

大学在学中、米国留学をしたときにカメラマンの道歩み始めたという。留学先で写真学科を専攻した彼女は、作品を通じてコミュニケーションのきっかけをつかんだ。他人から作品を評価される喜びと、写真で言葉の壁を越えることができた感動が忘れ

フォトグラファー

中川 正子さん

<http://www.planet.co.jp/product/shinsekai.html>

子育てとカメラワークの両立を楽しんでいるようだ。

## ◎手に入れた心のゆとり

ママさんカメラマンになった中川さんのこれからの夢は「自分に正直であり続けること」。『そうすれば出会うべくの人に会え、出会うべく地域に合える気がするんです』。重ねた実績にあぐらをかくことなく、常に心を研ぎ澄ませます。彼女の目に次は何か映るのだろうか。岡山に移り住み、少し時間の余裕ができたとき聞きプラベートを尋ねると「普通の生活、当たり前前の暮らしにはまっています」との答えが返ってきた。東京での暮らしを手放すことにより、心のゆとりを手に入れた。家庭と仕事、二つの要素が補完し合い彼女のベストの状態を作り出す。これからも自分を信じ、自分らしく進む女性として輝き続けるだろう。